

〔 RD-54CN型
RD-55N型 〕

RD-55型

水道法性能基準適合品
(耐圧性能・浸出性能・耐久性能)

減圧弁 取扱説明書

製品記号

〔 RD54CN-M□
RD55N-D□
RD55-D□ 〕
※□には二次側調整圧力範囲（バネ区分）記号が入ります。



流れ・ビューティフル

株式
会社



はじめに

この取扱説明書は、「RD-54CN型」「RD-55型」「RD-55N型」減圧弁の取扱方法について記述しています。本製品をご使用の前に熟読の上、正しくお使いください。

この取扱説明書は本製品を設置、および使用される方々のお手元に確実に届くようお取りはからい願います。

製品の危険性についての本文中の用語



警告 : 取扱を誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合。



注意 : 取扱を誤った場合、使用者が軽い、若しくは中程度の傷害を負う危険が想定される場合、または物的損害・損壊の発生が想定される場合。

ご使用にあたっての警告・注意事項

本製品のご使用にあたり、人身の安全および製品を正しく使用するために必ずお守りください。



警告

- 下記に該当する場合、製品の故障・損傷・破損や流体の外部への流出（吹出し）などによる物的損害・人的損害や怪我や蒸気の場合やけどをする恐れがありますので、取扱説明書を熟読の上、適切にご使用ください。
 - ①不当な取扱い、又は仕様による場合。
 - ②弊社の責任とみなされない故障の場合。
 - ③弊社以外での改造、又は修理による場合。
 - ④設計仕様条件を超えた過酷な環境下における取扱い、保管、あるいは使用の場合。
 - ⑤火災、水害、地震、落雷、その他天災地変による場合。
 - ⑥消耗品はなはだしい部品などで、あらかじめその旨申し出を行っている場合。
納入品の故障により誘発される物的損害・人的損害は補償の対象外となります。
- 本製品は、重量物ですので、配管に取付けの際には、製品本体を確実に支えるなどの注意を払ってください。
※製品を落とすと、怪我をする恐れがあります。
- 本製品を配管取付け後、流体を流す前に、配管末端まで流体が流れても危険のないことを確認してください。
※流体が吹出した場合、怪我をしたり、高温流体の場合、やけどをする恐れがあります。
- 二次側圧力の設定、調整時には、工具や手袋などを使用して行ってください。
※高温流体の場合、キャップや調節ネジなどが熱くなっていますので、不用意に触れた場合やけどをする恐れがあります。
- 製品にはむやみに触れないようにしてください。
※高温流体の場合、やけどの恐れがあります。
- 本製品の分解にあたっては、一次側の供給弁を止め、減圧弁内の流体を徐々に排出して、圧力が零になっていることを確認すると共に、高温流体の場合は、本体を素手でさわられるまで冷やしてから行ってください。
※流体の吹出しにより、周囲を汚したり、怪我や高温流体の場合はやけどをする恐れがあります。



注意

- 本製品の分解にあたっては、熟練した専門の方（設備・工事業者の方など）が実施してください。一般のご使用者は分解しないでください。二次側圧力上昇、流れが不安定などの異常がある場合は設備・工事業者、または当社に処置を依頼してください。
- 本製品を使用する前に、製品についている銘板の表示、および1頁の仕様とを確認してください。使用条件が仕様を満足することを確認の上、製品をご使用ください。
- 本製品の機能・性能の確認のため、日常点検、定期点検を実施してください。

目次	頁
1. 製品用途、仕様、構造、作動	1
(1) 用途	1
(2) 仕様	1
(3) 構造	2
(4) 作動	3
2. 設置要領	4
(1) 製品質量	4
(2) 配管例略図	4
(3) 要領	5
3. 運転要領	7
(1) 圧力調整	7
(2) 運転	8
4. 保守要領	9
(1) 日常点検	9
(2) 定期点検	9
(3) 交換部品と交換時期	9
(4) 故障の原因と処置	10
5. 廃却	11
○用語の説明	12
○サービスネットワーク	

———— ※「分解・組立要領」が必要な場合には、ご請求ください。 ————

目次	頁
1. 製品用途、仕様、構造、作動	1
(1) 用途	1
(2) 仕様	1
(3) 構造	2
(4) 作動	3
2. 設置要領	4
(1) 製品質量	4
(2) 配管例略図	4
(3) 要領	5
3. 運転要領	7
(1) 圧力調整	7
(2) 運転	8
4. 保守要領	9
(1) 日常点検	9
(2) 定期点検	9
(3) 交換部品と交換時期	9
(4) 故障の原因と処置	10
5. 廃却	11
○用語の説明	12
○分解・組立要領	13
(1) 分解	13
1) 分解工具および消耗部品	13
2) 分解	14
(2) 各部品の清掃および処置方法	17
1) 前準備	17
2) 各部品の清掃および処置方法	17
(3) 組立	18
○サービスネットワーク	

1. 製品用途、仕様、構造、作動

(1) 用途

RD-54CN型減圧弁は、赤水対策のナイロンコーティング品で、主として一般建築設備の給水・給湯設備、プラント設備などに幅広く使用されます。

RD-55、RD-55N型減圧弁は、接液部ステンレス品となります。



注意

給水装置に使用する場合は、水道法性能基準適合品のRD-54CN型、RD-55N型を使用してください。

(2) 仕様

★型式	RD-54CN	RD-55	RD-55N
製品記号	RD54CN-M□ ^注	RD55-D□ ^注	RD55N-D□ ^注
★呼び径	40~100A	50~100A	
★適用流体	水・温水	水・温水・ 材料を腐食しない液体	水・温水
★適用温度	5~60℃		
★一次側適用圧力	2.0MPa以下		
★二次側調整 圧力範囲	40~80A バネ区分	M: 0.3~0.7MPa H: 0.65~1.0MPa	
	100A バネ区分	M: 0.3~0.5MPa H: 0.45~1.0MPa	
※一次側圧力に対する二次側調整範囲は、下図「適用圧力選択図」を参照			
☆弁前後の最小差圧	0.05MPa (締切時)		
許容漏洩量	無し (二次側圧力計目視)		
端接続	JIS 16K、20K 共用RFフランジ		
材質	本体 (FCD)	本体 (SCS)	
	ダイヤフラム、ディスク (NBR)、弁座 (SUS)		
塗装	内外面: ナイロン11 コーティング	キャップ、バネケースのみ 内外面: ナイロン11コーティング	

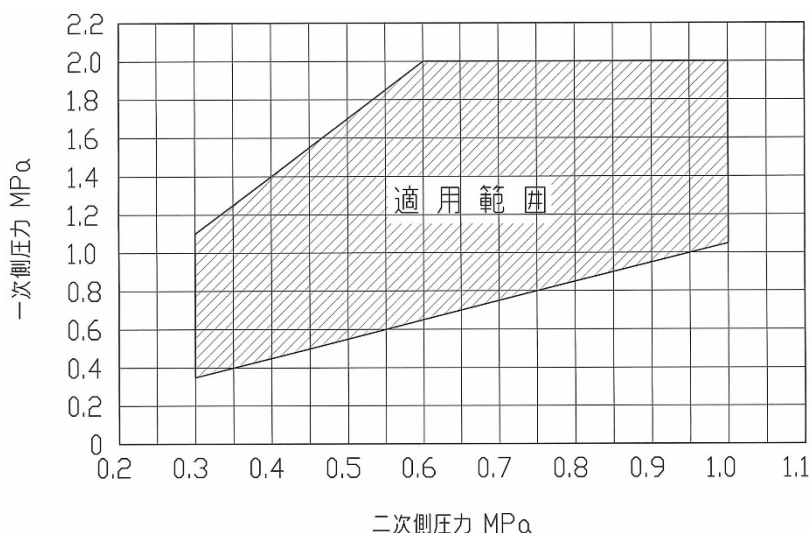
注: □には、二次側調整圧力範囲に表示のバネ区分の記号が入ります。



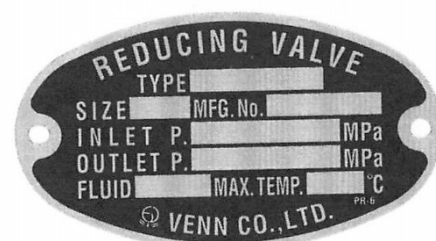
注意

- 製品についている銘板表示内容と注文された型式の上記仕様 ★ 部分を確認してください。
- 上記仕様の ☆ 部分が使用条件を満足することを確認してください。
- 上記の仕様を超えての使用はできません。

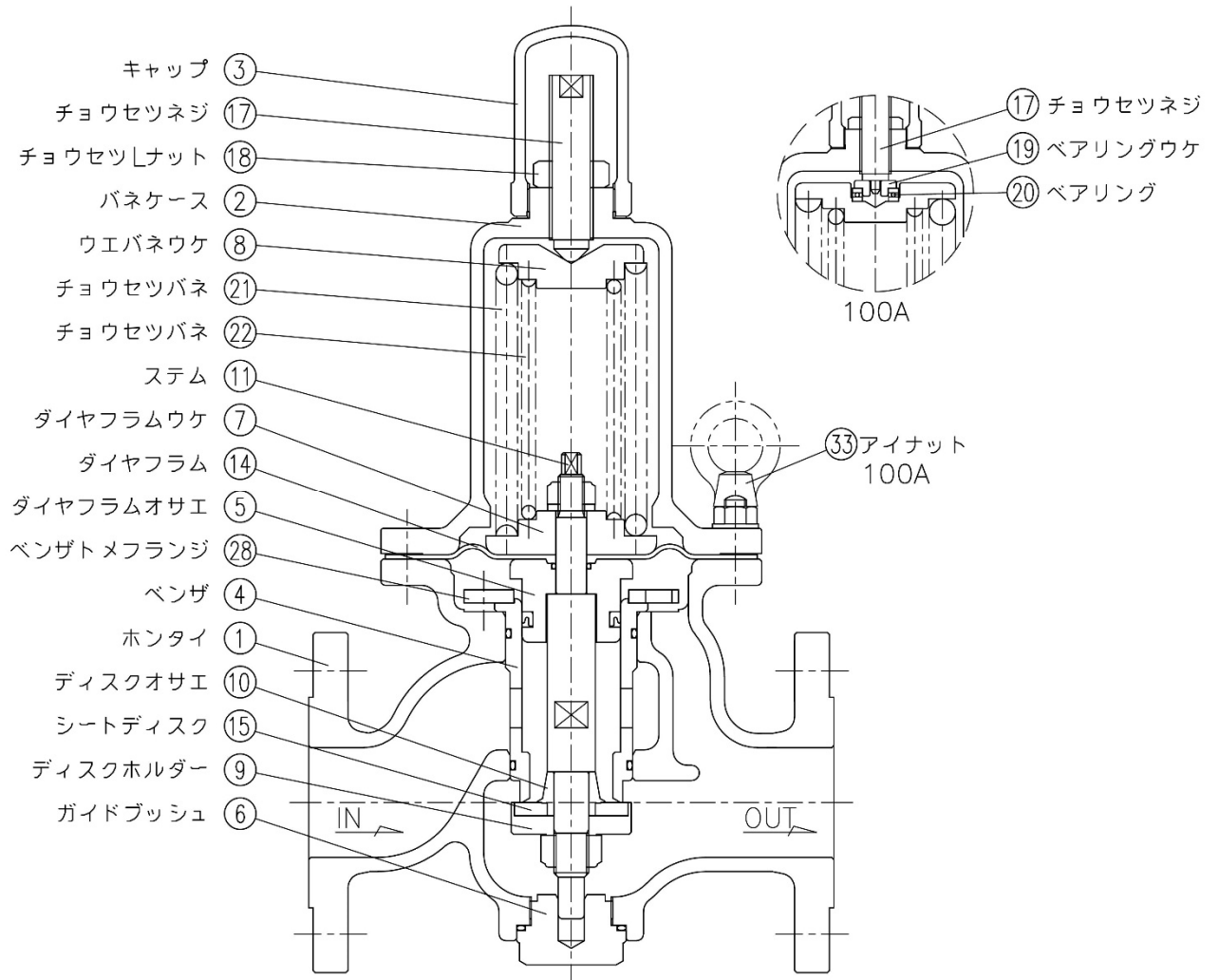
適用圧力選択図



銘板

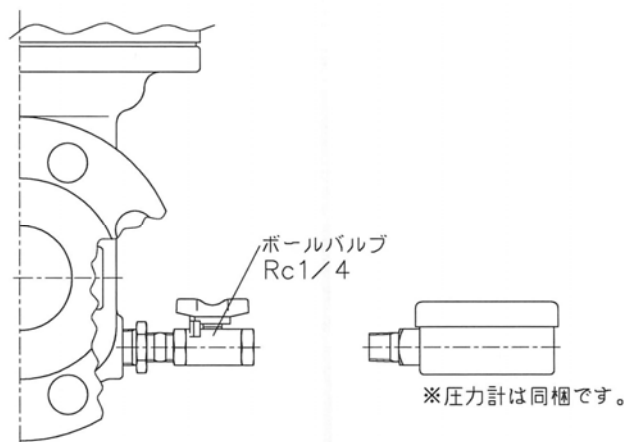


(3) 構造



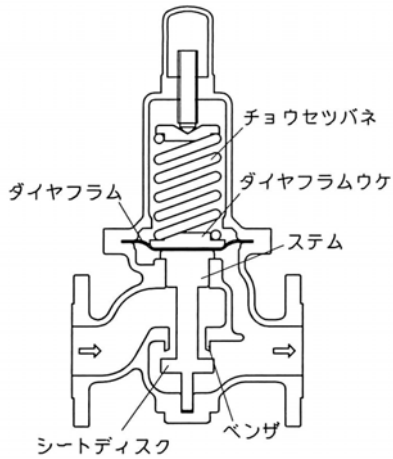
※注) 部品名・部品番号は、納入品図面と異なる場合があります。部品交換等の手配の際には、部品名・部品番号は、納入品図面をもとに指示してください。

圧力計付の場合



(4) 作動

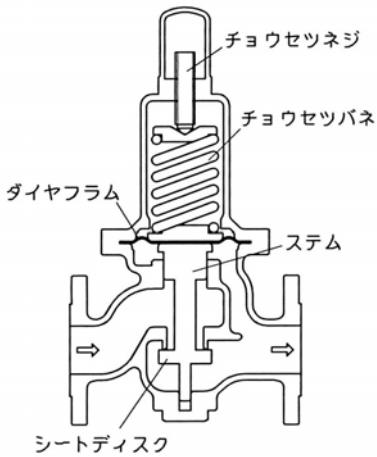
1)



流体を流さない状態では、チョウセツバネ、ダイアフラム、ダイアフラムウケ、ステムなどの部品質量でシートディスクはベンザより離れ、弁は開いています。

二次側の止弁を閉にした状態で、一次側より流体を流すと、流体はベンザ、シートディスクの間を通過して二次側に流れ出ます。

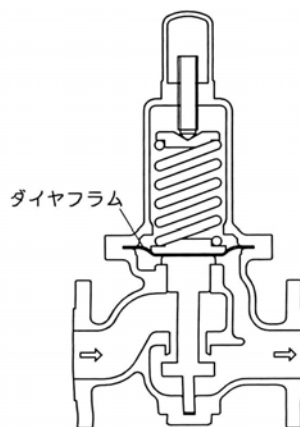
2)



二次側に流れ出た流体の一部は、ダイアフラムの下部に達し、上向きの力として働き、下向きの力に打ち勝ってシートディスクは弁閉します。

次に、チョウセツネジを回し、チョウセツバネをたわませると、ダイアフラムは押し下げられ、ステムを介して弁開し流体は二次側に流れ出ます。

3)



二次側に流れ出た流体の一部はダイアフラムの下部に達し、ダイアフラムを押し上げます。この二次側の圧力によるダイアフラムの上向きの力と、チョウセツバネによる下向きの力がバランスするようにシートディスクの開度を調節して、二次側の圧力を一定に制御します。

2. 設置要領



警告

本製品は重量物ですので、配管に取付けの際には、製品本体を確実に支えるなどの注意を払ってください。

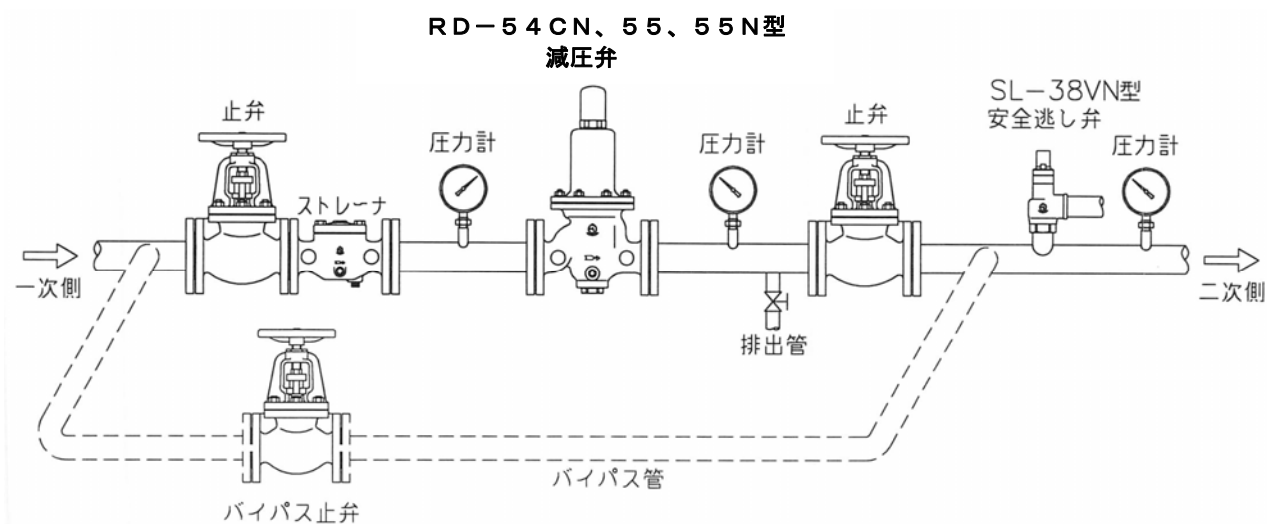
※製品を落しますと、怪我をする恐れがあります。

(1) 製品質量

(kg)

型式	呼び径	40A	50A	65A	80A	100A
RD-54CN	製品質量	17	19	34	42	65
RD-55		-	22	35	46	69
RD-55N						

(2) 配管例略図



(3) 要領



警告

- 減圧弁二次側に設置の安全（逃し）弁の吹出し管は安全な場所に導いてください。
※流体が吹出した場合、周囲を汚したり、怪我ややけどをする恐れがあります。
- 排出管を設置する場合は、管を排水可能な場所に導いてください。
※流体の吹出しにより、怪我をしたり、高温流体の場合やけどするなど危険です。



注意

- 製品の二次側には、安全（逃し）弁を取付けてください。
※減圧弁故障時の二次側圧力の上昇により、機器が損傷する恐れがあります。
- 製品の一次側には、ストレーナ（網目：国土交通省仕様は、水用40メッシュ以上。）を取付けてください。
※異物の混入により、二次側圧力の上昇、作動不良などの原因となります。
- 運転を止められない装置の場合、製品の一次側から二次側へのバイパス配管（止弁を設置）を設けてください。
※故障時や製品の分解の際、運転のためにバイパス配管が必要です。
- 製品の一次側、二次側には圧力計を取付けてください。
※圧力計を取付けていないと、圧力の調整、確認ができません。
- 製品を取付ける前に、配管の洗浄を充分に行ってください。
※配管の洗浄が不十分な場合、ゴミ噛みによる減圧不能などの原因となります。
- 輸送中などに製品への異物混入を避けるため、入口・出口にキャップ、あるいはシール蓋をしてあるものについては、それらを外してから取付けてください。
- 配管接続に使用するシールテープ・液状シール剤など、配管内に異物が入らないよう注意してください。
※異物の混入により、二次側圧力の上昇、作動不良などの原因となります。
- 製品を配管に接続する際には、製品の流れ方向を示す矢印と流体の流れ方向を合わせ、取付けてください。
※誤った取付けをした場合、製品の機能を発揮できません。
- 製品には、配管の荷重や無理な力・曲げ、および振動がかからないよう配管の固定や支持をしてください。
※配管の固定や支持をしない場合、製品の損傷や作動不良などの原因となります。
- 製品の二次側に電磁弁（オンオフ弁）を取付ける場合は、減圧弁から電磁弁を1～2m（呼び径の大きいもの程離す）以上離してください。また、二段減圧する場合も減圧弁の間隔は、同様に離してください。
※距離が短いと、二次側圧力の上昇や作動不良の原因となります。
- 凍結の恐れのある場合は、水抜きや保温などをしてください。
※凍結による破損の恐れがあります。

- 1) 配管例略図のように減圧弁前後に直管部を設け、止弁・ストレーナ・安全（逃し）弁・圧力計・（バイパス管）を設けてください。

注記：1. 安全（逃し）弁は、特に指定のない限り減圧弁の最大流量の10%程度の流量を吐出できるものを選定してください。

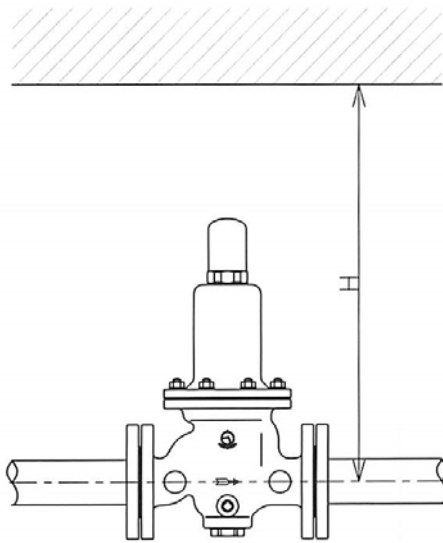
減圧弁の設定圧力に対する安全（逃し）弁の設定圧力は下表によってください。

減圧弁の設定圧力 (MPa)	安全（逃し）弁の設定圧力 (MPa)
0.1以下	減圧弁の設定圧力+0.05以上
0.1を越え0.4未満	" +0.08以上
0.4以上 0.6未満	" +0.12以上
0.6以上 0.8未満	" +0.15以上
0.8以上 1.0未満	" +0.19
1.0以上 1.2以下	" +0.23

2) 減圧弁は配管例略図のように、水平配管に正立取付としてください。

3) 分解・点検のため、配管センターから上方に下表のH以上の空間を確保してください。

(mm)



呼び径	H
40・50	600
65・80	700
100	800

4) 中高層ビルの高置水槽方式による給水設備で、減圧弁を一段及び多段で使用する場合、状況によってはウォーターハンマが発生する場合がありますので減圧弁の一次側に水撃防止器を設置してください。

注記：2. 水撃防止器の選定については、お問い合わせください。

5) 二次側より配管の耐圧試験を行う場合、減圧弁二次側圧力が設定圧力の1.2倍を超えないように注意してください。

6) 凍結の恐れのある場合は、保温や水抜きをしてください。

3. 運転要領



警告

- 本製品を配管取付け後、流体を流す前に、配管末端まで流体が流れても危険のないことを確認してください。
※流体が吹出した場合、怪我をしたり、高温流体の場合、やけどをする恐れがあります。
- 二次側圧力の設定、調整時には、工具や手袋などを使用して行ってください。
※高温流体の場合、キャップや調節ネジなどが熱くなっていますので、不用意に触れた場合、やけどをする恐れがあります。
- 製品にはむやみに触れないようにしてください。
※高温流体の場合、やけどの恐れがあります。



注意

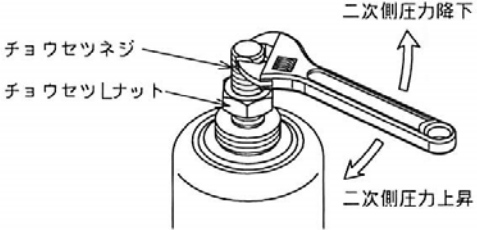
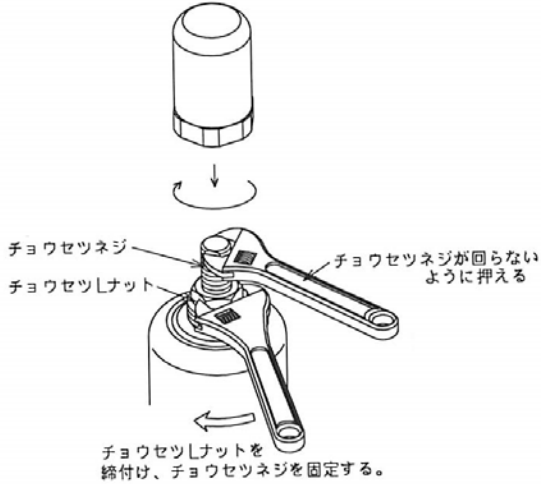
- 二次側圧力の調整は、未調整の状態では工場出荷していますので、所定の圧力に調整の上ご使用ください。
※圧力未調整の場合、二次側の圧力はほとんど零の状態となります。
- 長期間運転を休止する場合は、製品および配管内の流体を排出してください。
※配管内の錆の発生などによる故障、あるいは凍結による破損の恐れがあります。

(1) 圧力調整

次の手順によって圧力調整をしてください。

	手順	要 領	注 記
配 管 清 掃	1	一次側、二次側の止弁を閉止します。 バイパス管の止弁を閉止します。	
	2	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 注意 バイパス止弁で流体を流す場合、二次側圧力が設定圧力を超えないよう、圧力計を見ながらバイパス止弁を調整してください。設定圧力を超えると二次側の安全（逃し）弁が吹出します。 </div> 流体の供給弁を開き、次にバイパス止弁を開いて流体を流し、管内の異物を完全に除去します。	
	3	バイパス止弁を完全に閉止します。	
圧 力 調 整	4	一次側の止弁を全開になるまで徐々に開きます。	
	5	キャップを取外し、チョウセツLナットを緩めます。 <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> </div>	

次頁へ続く

	手順	要 領	注 記
圧 力 調 整	6	<p>二次側の圧力計を見ながら、希望の設定圧力になるよう、チョウセツネジをゆっくりと回転します。 チョウセツネジを右回転させると二次側圧力は上昇し、左回転させると低下します。</p> 	<p>右回転…バネケースに鑄出ししてあるUP矢印の方向</p>
	7	<p>圧力調整後、二次側止弁を2～3回開閉させ、流体を通して設定圧力を確認します。その後、二次側止弁を徐々に全開します。</p>	
	8	<p>圧力調整を終えたら、チョウセツナットでチョウセツネジを固定し、キャップを取付けます。</p> 	

※以上で圧力調整は完了です。圧力調整で異常がある場合は、「10頁：(4)故障の原因と処置」を参照し処置を行ってください。

(2) 運転

圧力調整終了後、そのまま使用（通常運転）できます。

異常がある場合は、「10頁：(4)故障の原因と処置」を参照し、処置を行なってください。

4. 保守要領



警告

本製品の分解にあたっては、一次側の供給弁を止め、減圧弁内の流体を徐々に排出して、圧力が零になっていることを確認すると共に、高温流体の場合は、本体を素手でさわられるまで冷やしてから行ってください。

※流体の吹出しにより、周囲を汚したり、怪我や高温流体の場合はやけどをする恐れがあります。



注意

- 本製品の機能・性能の確認のため、日常点検、定期点検を実施してください。
- 本製品の分解にあたっては、熟練した専門の方（設備・工事業者の方など）が実施してください。
一般のご使用者は分解しないでください。二次側圧力上昇、流れが不安定などの異常がある場合は、設備・工事業者または、当社に処置を依頼してください。
- 長期間運転休止後の再運転時には、機能・性能を確認するため、作動点検を実施してください。

（１） 日常点検

点検項目	処 置
設定圧力に変化がないかの確認	「10頁：（４）故障の原因と処置」参照
流量の出具合に変化がないかの確認	
外部漏れの有無	

（２） 定期点検

本製品の機能・性能を維持するため、定期的に分解点検を実施してください。

点検周期	1回／年
主 な 点 検 項 目	①ダイヤフラムの損傷
	②ダイヤフラムオサエの動き
	③シートディスクの当り面

（３） 交換部品と交換時期

交換部品の耐用年数は、使用頻度、使用条件などにより異なりますが、交換時期の目安は下表の通りです。

部 品 名	部 品 番 号	交換時期
ダイヤフラム	⑭	3～4年
シールリング	㉓	〃
シートディスク	⑮	分解点検時
Oリング	㉔ ㉕ ㉖	〃

(4) 故障の原因と処置

故障の状態、原因を確認し、処置を行います。

故障状態	原因	処置
1. 二次側圧力上昇	設定圧力調整不良。	設定圧力の再調整を行う。 「7頁：(1) 圧力調整 手順 4～8」参照
	バイパス止弁が閉じていない、または漏れている。	バイパス止弁を閉じる、または交換する。
	ベンザ、シートディスクの間にゴミを噛む。	スケール、ゴミを取除く。
	ベンザの当り面が損傷する。	「分解・組立要領」参照
	シートディスクの当り面が損傷する。	
	ダイヤフラムオサエの摺動部が円滑に動かない。	
	ダイヤフラムの破損。	
	シールリングが磨耗または破損する。	
2. 二次側圧力が上がらない (流量不足)	設定圧力調整不良。	設定圧力の再調整を行う。 「7頁：(1) 圧力調整 手順 4～8」参照
	ダイヤフラムオサエの摺動部が円滑に動かない。	「分解・組立要領」参照
	呼び径選定の誤り。(呼び径小)	仕様をチェックし、呼び径を変更する。
	配管内抵抗が大きい。	配管系をチェックする。
3. 外部漏洩 (ダイヤフラム部からの漏洩)	バネケースの締付け不良。	「分解・組立要領」参照

5. 廃却

RD-54CN、55、55N型減圧弁を廃却する際は、チョウセツLナットをゆるめ、チョウセツネジを左回転させ、チョウセツバネの荷重が零の状態としてください。

用語の説明

用語	定義
減圧弁	通過する流体そのものの圧力エネルギーにより、弁体の開度を変化させ一次側圧力から所定の二次側圧力に減圧する自動調整弁。
設定圧力	流量零における二次側圧力。
一次側圧力	本体内の入口側圧力、または本体に近い入口側配管内の圧力。
二次側圧力	本体内の出口側圧力、または本体に近い出口側配管内の圧力。
最小差圧	一次側圧力と二次側圧力との差圧の最小値。
定格流量	一次側圧力を一定とし、所定のオフセット内において保証し得る最大流量。
オフセット	一次側圧力を一定に保持した状態で、流量零から定格流量まで漸次増加させた場合に变化する二次側圧力と設定圧力との差。
本体耐圧	本体に水圧を加え、破壊、き裂、にじみなどの欠陥が生じない圧力の最大値。

分解・組立要領

(1) 分解



警告

本製品の分解にあたっては、一次側の供給弁を止め、減圧弁内の流体を徐々に排出して、圧力が零になっていることを確認すると共に、高温流体の場合は、本体を素手でさわられるまで冷やしてから行ってください。

※流体の吹出しにより、周囲を汚したり、怪我や高温流体の場合やけどをする恐れがあります



注意

●本製品の分解にあたっては、熟練した専門の方（設備・工事業者の方など）が実施してください。一般のご使用者は分解しないでください。

●液体で使用している場合、分解時に内部の流体が出ますので、容器で受けてください。

●分解時に、部品を落下させないように注意してください。また、分解部品は柔らかい布などの上に置き、傷をつけないようにしてください。

1) 分解工具および消耗部品

分解前に必要な工具、消耗部品などあらかじめ用意します。

呼び径 工具名称	40・50	65・80	100
ス パ ナ	17	19	19
	19	24	30
	24	36	36
	30		
ボックスレンチ	13	17	17
モンキレンチ	200	250	250
モーターレンチ	280	280	280

消耗部品

部品名	部品番号	要求先
ダイヤフラム	⑭	(株)ベン
シールリング	⑳	〃
シートディスク	⑮	〃
Oリング	㉔ ㉕ ㉖	〃

交換時期は「9頁：(3) 交換部品と交換時期」を参照ください。

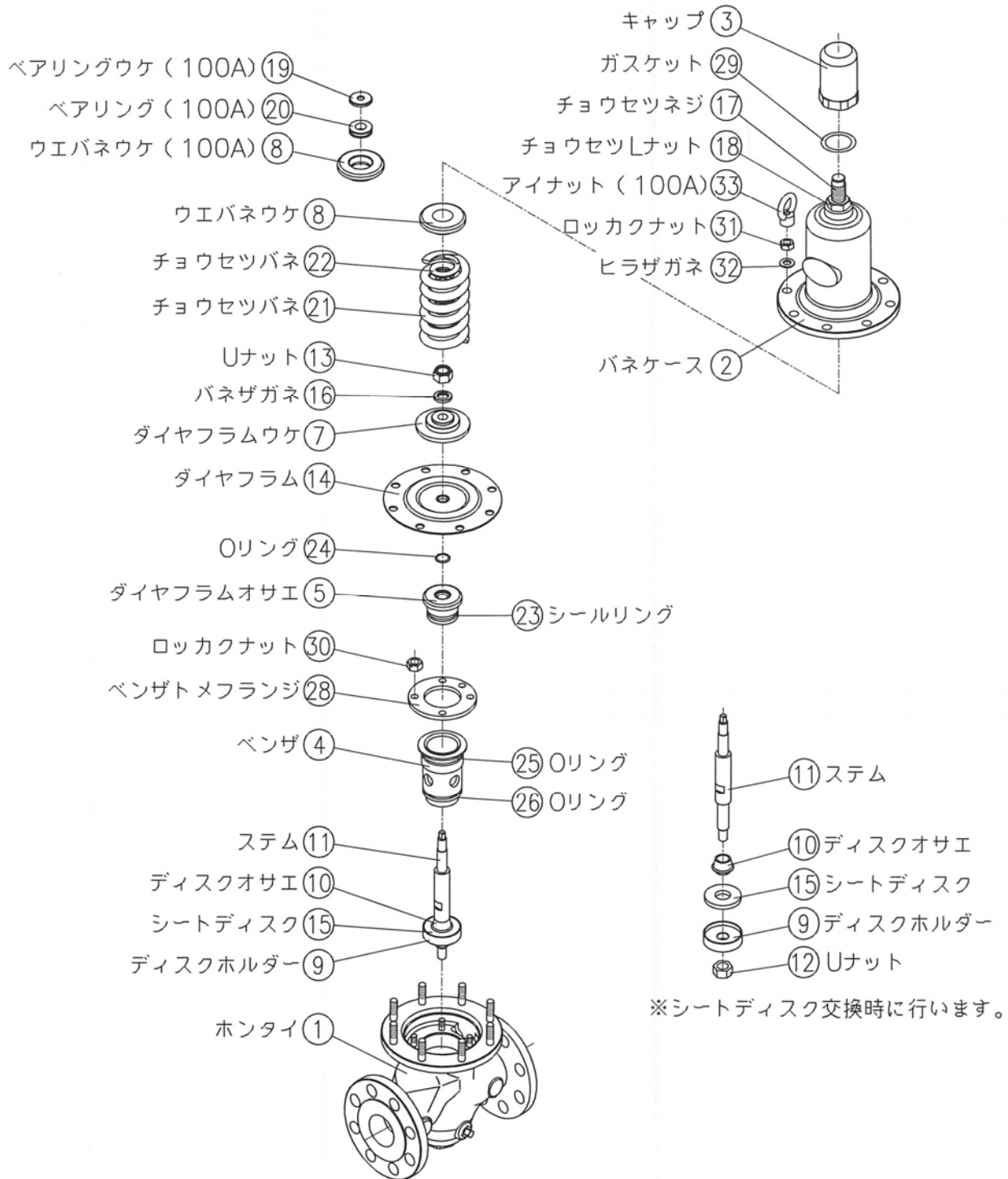
2) 分解

(15、16頁 分解図 参照)

手順	分解要領
バネケース部	1 キャップ③を緩めて取外し（左回転）、ガスケット⑳を外します。
	2 チョウセツLナット⑱を緩めます（左回転）。
	3 チョウセツネジ⑰を左回転させ、バネ荷重が零になるまで緩めます。
	4 ロックナット⑳ [ロックボルト㉑]（呼び径100の場合：アイナット㉒、ロックナット⑳ [ロックボルト㉑]）を緩めて取外すと、バネケース②、ウエバネウケ⑧、チョウセツバネ㉓、㉔が取外せます。（呼び径100の場合：ウエバネウケ⑧からベアリングウケ⑲、ベアリング㉕を取外します。） この時、ステム⑪を上下させスムーズに動くかを確認します。動きが悪い場合は必ず処置が必要です。「17頁：(2) 2) 手順5」参照
ダイヤフラム部	5 ステム⑪の先端をスパナで押さえながら、Uナット⑬を緩めて取外します。
	6 バネザガネ⑯、ダイヤフラムウケ⑦を取外します。
	7 ダイヤフラム⑭を取外します。
	8 ダイヤフラムオサエ⑤を取外します。 シールリング㉖が取り出せます。
ベンザ・ディスク部	9 ロックナット㉗ [ロックボルト㉘]を緩めて取外し、ベンザトメフランジ㉙を取り出します。
	10 ダイヤフラムオサエ⑤、ダイヤフラムウケ⑦を再度、ステム⑪に組込み、Uナット⑬を軽く締付けます（手締め程度）。
	11 ダイヤフラムウケ⑦を両手で引上げ、ベンザ部一式を抜き取ります。 Oリング㉚、㉛が取り出せます。
	12 ステム⑪中央の面取り部にスパナをかけ、Uナット⑬を緩めて取外すと、ディスクホルダー⑨、シートディスク⑮が取外せます。

※ [] 内の名称・番号はRD-55、55N型減圧弁の場合になります。

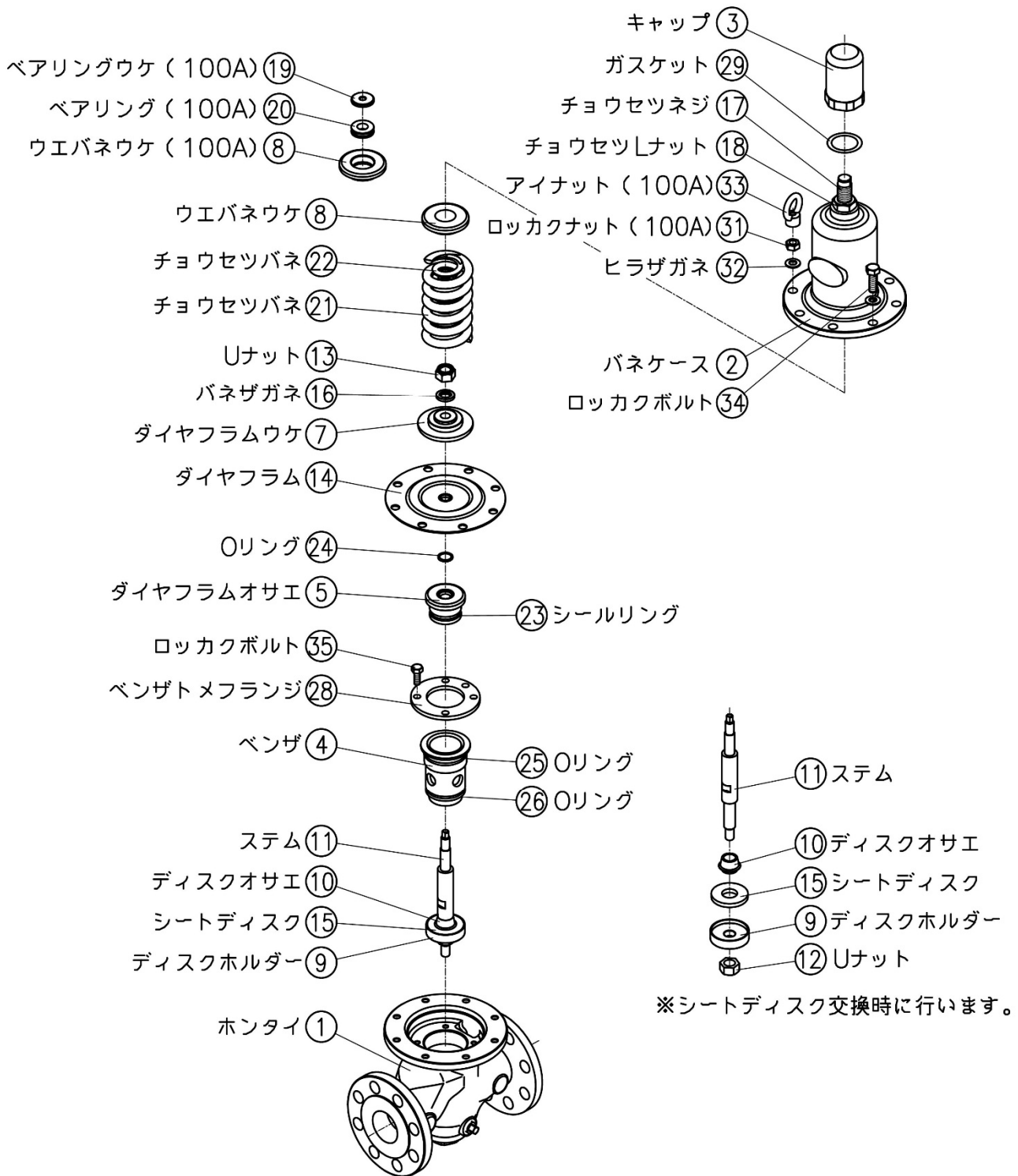
分解・組立図
RD-54CN型



※注) 部品名・部品番号は、納入品図面と異なる場合があります。部品交換等の手配の際には、
部品名・部品番号は、納入品図面をもとに指示してください。

分解・組立図

RD-55、55N型



※注) 部品名・部品番号は、納入品図面と異なる場合があります。部品交換等の手配の際には、
 部品名・部品番号は、納入品図面をもとに指示してください。

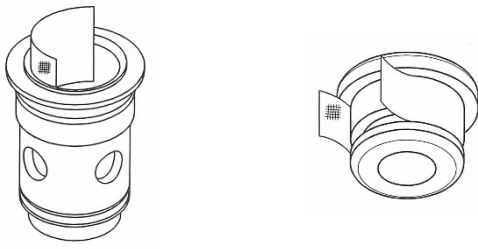
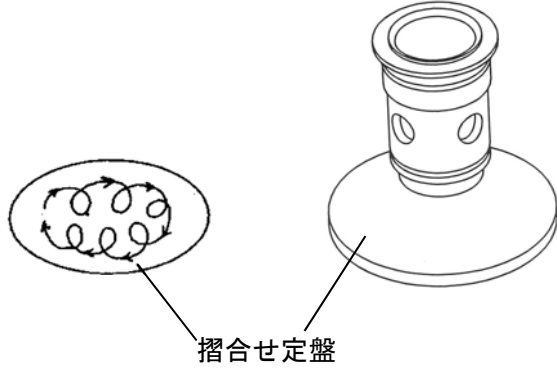
(2) 各部品の清掃および処置方法

1) 前準備

清掃前に必要な用具をあらかじめ用意します。

用 具	ウエス (柔らかい布など)
	潤滑剤 (シリコングリース)
	研磨布紙 (#500程度、サンドペーパー)
	研磨材 (#1000程度、ラッピングコンパウンド)
	摺合せ定盤

2) 各部品の清掃および処置方法

手順	要 領
1	各部品をウエスで清掃します。
2	ダイヤフラム⑭の損傷が激しい場合は、新品と交換します。
3	シールリング⑳の損傷が激しい場合は、新品と交換します。 Oリング㉑、㉒、㉓は分解時に交換します。
4	シートディスク ⑮の損傷が激しい場合は、新品と交換します。
5	<p>ベンザ④とダイヤフラムオサエ⑤の動きが悪い場合は、ベンザ④の摺動面、ダイヤフラムオサエ⑤の内面を#500程度の研磨布紙で軽く動くようになるまで研磨します。 この時、シールリング⑳を外してから行ってください。</p> <div style="text-align: center;">  </div>
6	<p>ベンザ④の当り面 (流体をシールする接触部分) に大きな傷がついている場合は、#1000程度の研磨材で摺合せを行ないます。 摺合せ定盤に研磨材を薄く塗布し、ベンザ④を均一の力で軽く押しつけ、楕円状動作で摺合せを行います。4～5回動作させる毎にベンザ④を回転させ、位置をずらして持ち直します。 摺合せ終了後、当り面はウエスなどで良く拭き取ります。 摺合せを行っても傷が消えない場合は、新品と交換します。</p> <div style="text-align: center;">  </div>

注記：損傷部品の交換の要否が判断できない場合は、(株)ペンに相談ください。

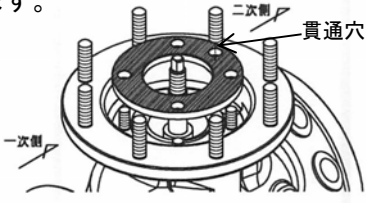
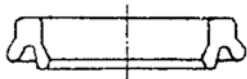
(3) 組立



注意

組立にあたっては、部品などは確実に組付け、ボルトは片締めとならないよう対角上に均一に締付けてください。

(15、16頁 分解図 参照)

手順	要 領	注 記	
ディスク部	1	ディスクホルダー⑨にシートディスク⑮とディスクオサエ⑩を組み込み、更にステム⑪を組み込んでUナット⑫で締付けます。	
	2	ステム⑪の下端の摺動部をホンタイ①の底部に差し込みます。	
ベンザ部	3	ベンザ④にOリング⑮、⑯を装着し、ホンタイ①に組込みます。	Oリングにはシリコングリースを塗布します。
	4	ベンザトメフランジ⑳をベンザ④にセットし、ロックナット㉑ [ロックボルト㉒]を締付け、ホンタイ①に固定します。 このとき、ベンザトメフランジ⑳の貫通穴を右図の向きでセットします。	ロックボルトは片締めとならないよう対角上に均一に締付けます。 
ダイヤフラム部	5	ダイヤフラムオサエ⑤にシールリング㉓を装着します。 ダイヤフラムオサエ⑤をベンザ④に組込みます。	シールリング (Oリング) およびベンザの摺動部にはシリコングリースを塗布します。  シールリングは二又 (足) 側を下へ向けて組み込みます。
	6	ダイヤフラム⑭、ダイヤフラムウケ⑦、バネザガネ⑯の順にステム⑪に組込みます。	
	7	ステム⑪の上端の二面部をスパナで押さえながらUナット⑬で締付けます。	ステムを2~3回上下させ、円滑に動くことを確認します。
バネケース部	10	チョウセツバネ㉔ ㉕、ウエバネウケ⑧ (呼び径100の場合はベアリング㉖、ベアリングウケ⑨含む) を順にダイヤフラムウケ⑦に乗せます。 チョウセツネジ⑰、チョウセツLナット⑱の組込まれたバネケース②をホンタイ①に乗せ、ロックナット㉑ [ロックボルト㉒]で締付けます。 (呼び径100の場合：ロックナット㉑を締付けた後、アイナット㉓ を取付けます。)	ロックナットは片締めとならないよう対角上に均一に締付けます。

以上で組立は終了です。組立後は「7頁：(1) 圧力調整」を参照し、圧力調整を実施してください。

※ [] 内の名称・番号はRD-55、55N型減圧弁の場合になります。

製品及び本取扱説明書に関するお問合せは下記へお願いします。

○サービスネットワーク

サービスネットワークについては、弊社ホームページ（二次元コード読みまたはURL入力（<http://www.venn.co.jp>）の拠点情報より最寄りの営業所までお問合せ願います。

拠点情報 二次元コード

